

二中コミュニティ・スクールだより

～市川市立第二中学校学校運営協議会～
「夢・命・絆」

令和7年度第2号
(通算第27号)
会長 小林 俊之
(文責 野手 裕之)

「令和7年度第2回学校運営協議会」報告

令和7年9月24日(水)に、令和7年度第2回学校運営協議会が、第二中学校多目的室において、委員10名の出席のもとで開催されました。

15時30分～17時30分の約2時間、二中学生のために協議を行いました。

次第

1. 協議
・学校評価について
2. 報告および意見交換
・学校の様子について
3. その他

◎あいさつ

協議に先立ち、藤井校長と小林会長から次のようなあいさつがありました。

○藤井校長のあいさつ

本日は、お忙しい中、委員の皆様には、第2回学校運営協議会にご出席いただき、ありがとうございます。

本日は、学校評価アンケートに関して、ご説明をさせていただきますので、委員の皆様からのご意見をいただき、それを踏まえて、保護者への回答をしたいと思います。

なお、先日の菅野小での盆踊りが盛況に開催されました。教え子にも再会できてうれしかったです。

引き続き、二中学生のために、地域のために、多くの方のご支援をお願いいたします。

○小林会長のあいさつ

お忙しいところありがとうございます。

第1回の学校運営協議会以来で、ご無沙汰しております。

つい先日まで、猛暑でしたが、このところ秋めいてきて、子どもたちにとっても活動しやすくなってきたかと思います。

本日は、学校評価アンケートについてが主な議題となりますので、子どもたちの成長につながるご意見をぜひお聞かせください。

なお、引き続き、二中学生のために、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

1. 協議

学校評価アンケートについて協議を行いました。まず、藤井校長から説明がありました。今回の保護者アンケートの回収率は約64%でした。

市内共通の保護者アンケートについては、例年どおり、二中では肯定的意見が高い傾向にあり、さらに、前年度後期から改善されていると評価できました。同様に、生徒アンケートも望ましい結果となっています。ただし、委員からは、回収率の低さへの懸念やフィードバックをしっかりと欲しいという意見がありました。とりわけ、後者に対しては、生徒、保護者、そして、学校運営協議会の意見を反映した形でフィードバックしていくことになりました。この他に、タブレットの活用について、学校からもさらに指導をした方がいいのではないかという要望がありました。

「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果、中学生の平均点は、全国平均や千葉県平均と比べて、国語、数学、理科のいずれも良好な結果でした。単元テスト導入以前も、中学生は千葉県平均や全国平均を上回っていましたが、単元テストに完全移行した昨年度と今年度の中学生の平均点は、それまで以上に相対的に高い結果になりました。

保護者アンケートと生徒アンケートにおいて、単元テストの有効性に対して、保護者では約70%、生徒では約90%が肯定しており、全体として肯定的評価が多い結果でした。

これらのことから、単元テストの導入の効果だけではないとしても、単元テストが、生徒の家庭学習や学習習慣の定着に繋がって、学力の向上につながっていると考えてもよいのではないかという意見が複数の委員から出されました。

「全国学力・学習状況調査」の結果は、国立教育政策研究所から公表されています¹。

その中で、生徒への質問調査と平均点とのクロス集計が公表されております。これまでの「コミスクだより」で何度も取り上げています**「非認知能力（ソフトスキル）：学力とともに、学習指導要領の基本理念『生きる力』に位置づけられる」**の重要性に関して、今回の調査結果から改めて確認できました。クロス集計に基づいて、いくつかの質問項目とそれに関連するスキル、回答ごとの全国平均点を図表化したものが次ページの「図表1 学力と非認知能力との関係」です。これら以外にも、あきらめない力（やり抜く力）や意欲（学習の意義を見いだす力を含む）なども、学力との相関関係が認められました（ただし、因果関係ではありません）。

つまり、非認知能力が高いほど、学力も高い傾向がみられました。

このようなことから、一層、中学生の自己肯定感を含む非認知能力の向上（改善）のために、学校、家庭、地域で協力して取り組んでいくことが肝要であるといえますので、引き続き、一緒に中学生を支えていきましょう。

《参考》

2012年に、アメリカの教育政策やカリキュラム開発に大きな影響を与えた報告書である「生活と仕事のための教育：21世紀における汎用可能な知識とスキル」(Education for Life and Work: Developing Transferable Knowledge and Skills in the 21st Century)²が、「ディープラーニングと21世紀型スキルの定義に関する委員会」(Committee on Defining Deeper Learning and 21st Century Skills)³によって公表されました。以下に、簡単に紹介します。

幅広い研究に基づき、成人期の学業達成・職業成果・健康や社会的生活と良好な関連（統計的に有意な正の関連）をもつ力を「21世紀型スキル」として、次の3つに分類しています。

「認知能力：学力など」、「個人内能力（Intrapersonal Competencies）：柔軟性・適応性・主体性・自律性・忍耐力・誠実性・自己調整・積極性など」、「対人能力（Interpersonal Competencies）：協調性・共感性・リーダーシップ・コミュニケーション力・責任感など」です。

このようなスキル（特に、非認知能力といわれる個人内能力や対人能力）は、新しく特別なスキルではなく、何世紀にもわたって普遍的に望ましいとされてきたもので、さらに教育において重視すべきものと位置付けました。

¹ [令和7年度 全国学力・学習状況調査 調査結果資料 全国版 中学校：国立教育政策研究所 National Institute for Educational Policy Research](#)

² [Initiatives|Committee on Defining Deeper Learning and 21st Century Skills | The National Academies Press](#)

³ アメリカの国立研究機関である全米研究評議会が、全米科学アカデミー、工学アカデミー、医学研究所の依頼で設置した委員会です。

図表 1 学力と非認知能力との関係

質問項目	関連するスキル	①	②	③	④
自分には、よいところがあると思いますか	自己肯定感	55.7	54.6	52.6	51.1
		51.6	48.5	44.2	41.0
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	アタッチメント	55.7	54.4	50.9	48.8
		50.8	48.4	43.5	40.9
人が困っているときは、進んで助けていますか	自己有用感、道徳心	53.5	55.7	54.9	51.2
		47.3	50.4	49.8	46.1
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	アタッチメント	53.6	55.6	55.5	53.3
		48.2	50.4	49.4	45.3
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	自己有用感、公共性	55.6	52.8	50.7	49.5
		50.5	45.9	43.7	43.2
学校に行くのは楽しいと思いますか	アタッチメント	55.1	55.0	53.4	50.2
		50.9	48.8	45.1	40.3
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	共感力	57.3	54.7	51.6	46.9
		54.0	48.8	43.2	36.8
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	自己有用感、公共性	55.7	55.5	53.0	49.7
		51.3	50.0	46.1	42.3
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	共感力、探求心	58.3	54.5	48.1	43.5
		54.6	48.4	39.7	33.0
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	協調性、問題解決能力	56.7	54.0	48.4	44.0
		52.1	47.7	40.4	34.1

図表における①～④は次のとおりです。①当てはまる、②どちらかといえば当てはまる、③どちらかといえば当てはまらない、④当てはまらない。また、点数の上段は国語、下段は数学の全国の平均点です。表の背景色は相関関係を表していて、**非常に強い、強い、中程度、弱い、無関係**を表しています。

2. 報告及び意見交換

・学校の様子について

大林教頭から、夏休み明けの生徒の様子について、報告がありました。二中フェスや校外学習など行事がたくさんあります。生徒たちはそれぞれの役割に一生懸命取り組んでいます。いい思い出となり、また、成長につながると考えております。また、教職員も一生懸命にサポートしています。

・地域学校協働活動推進員から



7月2日に「PUSHコース（救急救命講習会）」、また、7月16日に「折れない心を育てるいのちの授業」を開催しました。参加者は少なくとも有意義なものと考えています。



10月13日には、N F E Sを開催します。また、12月には、一年生の授業で、学校支援実践講座（交流会）を開催するので、支援者の募集を始めました。

第二中ブロック合同学校運営協議会について（報告）

令和7年7月11日に真間小学校で、第二中ブロック合同学校運営協議会が開催されました。

第二中学校、真間小学校、菅野小学校、国分小学校、須和田の丘支援学校の委員が、5～6名／グループに分かれて、「二中ブロックにおける地域と学校、地域と地域の子供たちとの関わり方について」をテーマにして、意見交換しました。要約すると、次のとおりです。

二中ブロックでは、地域が学校や子育てに温かく協力していることが多く語られました。読み聞かせやお祭り、ボランティア活動などを通じて、子どもたちは地域の方々に見守られながら成長しています。一方で、PTAや子ども会などの役割を担う人が少なくなっていることが課題として挙げられ、役員や係を敬遠する傾向も見られました。その一方で、真間小パパの会や菅野小お父さんの会のように、保護者が楽しく積極的に活動する好事例も紹介されました。また、近年は遊び場の減少やゲーム遊びの増加、「いい子すぎる（おとなしい）」といった子どもの姿への心配もあり、地域や学校が協力して、子どもがのびのびと交流し、失敗からも学べる機会をつくることの大切さが共有されました。

